

### 【3】 学業の修了年齢

[0] 本項では前項で取り上げた就学後の学業の修了年齢と、就学から修了までの就学期間に関する具体的な年齢が記されている資料を対象として、統計的に分析し、かつ若干の考察を施す。

[1] 以下にここに取り上げる学業の修了年齢を記す資料を紹介する。

[1-1] 原始仏教聖典（A文献）の学業の修了年齢と就学期間を記す資料である。修了年齢の若い順から掲げる。なおインデックスとして、名前/性別/属性/年齢/就学期間を掲げる。ただし就学年齢が明記されていず、したがって就学期間が不明のものは、就学期間のところには？を入れておいた。

(1) 恵燈/男/クシャトリヤ（王子）（仏の過去世）/13歳<sup>(1)</sup>/4.5年

① 8歳9歳《就学》⇒② 13歳《学業の修了》⇒③ 14歳15歳《即位関連》

『四分律』「雜犍度」（大正22 p.950下）：〔過去世〕時利益衆生王命終王子轉大。至年八九歳。其母教學諸伎藝。書畫算數戲笑歌舞伎樂。象馬騎乘乘車。學射勇健捷疾。於諸伎藝皆悉綜練。至年十四五時。諸群臣。至王子所白言。知不。王已命終。今次應登王位。爲王施行教令。王子答言。我不能爲王行王教令。何以故。我前世時。曾爲國王經六年。以是因緣墮在地獄六萬歳。以是故。今不能爲王行王教令。

(1) 13歳まで学習の可能性あり。資料集では八歳九歳の就学時点の年齢でとるが、三時殿が設けられる14・15歳の前年、13歳を学業の修了年齢として取り直した。

(2) 定光/男/クシャトリヤ（王子）（仏の過去世）/14歳<sup>(1)</sup>/5.5年

① 8歳9歳《就学》⇒② 14歳《学業の修了》⇒③ 15歳16歳《結婚》

『四分律』「受戒犍度」（大正22 p.782下）：〔過去世〕定光菩薩。年向八歳九歳時王教菩薩學種種技術。書算數印畫戲笑歌舞鼓弦乘象乘馬乘車射御膂力。一切技術無不貫練。賈人當知。定光轉年。至十五十六時。王即爲設三時殿。冬夏春給二萬婬女。使娛樂之。

(1) 14歳まで学習の可能性あり。資料集では八歳九歳の就学時点の年齢でとるが、三時殿が設けられる15・16歳の前年、14歳を学業の修了年齢として取り直した。

(3) アッサラーヤナ（Assalāyana）/男/青年婆羅門（māṇava）/16歳/?

① 16歳《隠棲》⇒② 16歳《学業の修了》

MN.093 Assalāyana-s. (vol. II p.147)：アッサラーヤナという名の青年婆羅門（māṇava）が舍衛城（Sāvattihī）に住んでいた。彼は年若く（dahara）剃髪し《隠棲》、年齢は生れて16歳であった（soḷasavassuddesiko jātiyā）。字彙と儀軌（nighaṇḍukeṭubha）を含む、語源論（akkharappabheda）を含む古伝説（itihāsa）を第5とするヴェーダに通達し（tiṇṇaṃ vedānaṃ pārāgū）、聖句の通曉者（padaka）にして文典家（veyyākaraṇa）であり、順世論（lokāyata）および大人相（mahāpurisalakkhaṇa）において完全であった《学業の修了》。

(4) カーパティカ（Kāpaṭhika）/男/青年婆羅門（māṇava）/16歳/?

① 16歳《隠棲》⇒② 16歳《学業の修了》

*MN.095 Cankī-s.* (vol. II p.164) : カーパティカという名の青年婆羅門がいた。彼は年若く (*dahara*) 剃髪し《隠棲》、年齢は生れて16歳であった (*soḷasavassuddesiko jātiyā*)。字彙と儀軌 (*nighaṇḍukeṭubha*) を含む、語源論 (*akkharappabheda*) を含む古伝説 (*itihāsa*) を第5とするヴェーダに通達し (*tiṇṇaṃ vedānaṃ pāragū*)、聖句の通曉者 (*padaka*) にして文典家 (*veyyākaraṇa*) であり、順世論 (*lokāyata*) および大人相 (*mahāpurisalakkhaṇa*) において完全であった《学業の修了》。

[1-2] 後期原始仏教聖典 (B文献) の学業の修了年齢資料を紹介する。

〈1〉アーダーサムカ・クマーラ (*Ādāsamukha-kumāra*) /男/クシャトリヤ (王子) /6歳<sup>(1)</sup> /?

①6歳《学業の修了》⇒②7歳《即位》

*Jātaka 257 Gāmaṇiṇaṇḍa-j.* (vol. II p.297) : [主分] アーダーサムカ・クマーラ (鏡面王子) は7歳 (*sattavassa*) になるまでに、父ジャナサンダ王によって3ヴェーダ (*tayo vede*) と、この世でなさねばならないあらゆることを修めさせられ (*sabbañ ca loke kattabbaṃ sikkhāpetvā*) 《学業の修了》、そして7歳の時に (*sattavassikakūle*)、父王は亡くなったが、大臣たちは、未だ幼少過ぎるとして、王子の即位に難色を示した。王子は大臣たちの試みに合格し、王位に即いた《即位》。

(1) 「7歳 (*sattavassa*) になるまでに」との記事から、【資料集 1-1】で7歳の資料として取っていたものを6歳として取り直した。

〈2〉サンニャサーミカ (*Saññasāmika*) /男/バラモン/7歳/?

*Apadāna 03-33-324* (p.260) : [過去世] 私 (サンニャサーミカ) は生れて7歳にして (*jātiyā sattavasso' haṃ*) ヴェーダに通じた (*mantapāragū*) 《学業の修了》。家系を保持し、私により犠牲祭 (*yañña*) が取行された。

〈3〉ヴァンギーサ (*Vaṅgīsa*) /男/遍歴者の家 (*paribbājakula*) /7歳/?

*Apadāna 03-55-541* (p.495) : 私 (ヴァンギーサ) は遍歴者の家 (*paribbājakula*) に生れ、生れて7歳にして (*jātiyā sattavassiko*) 一切のヴェーダを知り、論学においては無畏者となり (*vādasatthavisārada*)、音声微妙にして (*vaggussara*) 談ずるところ美しく (*cittakathin*)、他論を粉碎した《学業の修了》。

〈4〉一長者子/男/ヴァイシャ (長者子) /7歳/?

『六度集経』66 (大正03 p.035下) : 時兒長大至年七歳。悉知微妙道俗皆備。與衆超絶。智度無極《学業の修了》。諸比丘等皆從受學。經中誤脱有所短少。皆爲刪定。足其所乏。兒每入出有所至止。輒開化人使發大乘。

〈5〉舍利弗<sup>①</sup>/男/バラモン/8歳/?

『撰集百緣経』99 (大正04 p.255上) : 時舍利弗。年始八歳。會乎論場。問諸人言。敷四高座。爲欲待誰。諸人答言。一爲國王。二爲太子。三爲大臣。四爲論士。時舍利弗。聞是語已。輒昇論士高座而坐其上。……時舍利弗。論議既勝。名聲遠著於十六大國。智慧博通獨出無侶《学業の修了》。

〈6〉シッダッタ<sup>①</sup>/男/クシャトリヤ (王子) /10歳/?

『過去現在因果経』 (大正03 p.628中) : 爾時太子至年十歳。諸釋種中。五百童子。

皆亦同年。……各閑伎藝。有大筋力。時提婆達多等五百童子。既聞太子諸藝皆通《学業の修了》。

(7) 普施 (菩薩) /男/ヴァイシャ<sup>(1)</sup>/10 歳/?

『六度集経』09 (大正 03 p.004 上) : 昔者菩薩從四姓生。……名兒曰普施。年有十歳。佛諸典籍流俗衆術靡不貫綜。

(1) 国訳一切経・本縁部 6 p.139 脚注には「四姓より生る」を四つの階級のいずれかであるとし、ここでは第 3 の吠舎であろうとする。

(8) シッダッタ<sup>②</sup>/男/クシャトリヤ (王子) /12 歳/4 年

① 8 歳《就学》⇒② 12 歳《学業の修了》<sup>(1)</sup>

『仏本行集経』 (大正 03 p.705 中) : 爾時太子生長王宮。孩童之時。遊戲未學。年滿八歳。出閣詣師。入於學堂。從毘奢蜜及忍天所。二大尊邊。受讀諸書。并一切論。兵戎雜術。經歷四年。至十二時。種種技能。遍皆涉獵。既通達已《学業の修了》。

(1) 「就学」の項では複数の B 文献漢訳資料としてまとめてあるが、「学業の修了」としてはこの資料のみ出す。

(9) クサ (菩薩) /男/クシャトリヤ (王子) /15 歳<sup>(1)</sup> /1 年

① 15 歳《学業の修了》⇒② 16 歳《即位/結婚》

*Jātaka 531 Kusa-j.* (vol.V p.278) : [主分] クサ王子 (菩薩) とその弟ジャヤンパティは素晴らしい榮譽をもって (mahant) 成長した (vaḍḍhati)。菩薩は智慧があるので、師匠のもとして何も習うことなく、自身の智慧によりあらゆる学芸に通暁した (sabbasippesu nipphattim pāpuṇi) 《学業の修了》。クサ王子が 16 歳 (soḷasavassa) の時、王は王子に王位を譲りたいと思った。王子は、自身が醜男であることから、両親の存命中はこれに従い、後は出家しようと考えた。王は臣下を遣わして息子にふさわしい姫君をさがさせ、パバーヴァティ (Pabhāvati) 王女を見出し、王子を王位につかせ、彼女を第 1 王妃にさせた《即位/結婚》。

(1) 16 歳の時、即位を話題とするから、学業の修了年齢を前年の 15 歳としてとった。

(10) マハージャナカ (Mahājanaka) (菩薩) /男/バラモン<sup>(1)</sup> /15 歳<sup>(2)</sup> /?

① 15 歳《学業の修了》⇒② 16 歳《就業》

*Jātaka 539 Mahājanaka-j.* (vol.VI p.030) : [主分] マハージャナカ (菩薩) は 16 歳 (soḷasavassa) になるまでの間に 3 ヴェーダやあらゆる学芸を修了した《学業の修了》。……so soḷasavassabbhantare yeva tayo ca veda sabbasippāni ca uggaṇhi, soḷasavassakāle pana uttamarūpadharo ahosi. (vol.VI pp.033~034) 彼は父王のものだった王国を取り返そうと考えて、母から半分の財産を貰い受け、それで商売をして軍資金を溜めようと考え、スヴァンナブーミへ船出した《就業》。……※兄アリッタジャナカに副王位⇒父王の死後には王、弟ポーラジャナカに將軍位⇒父王の死後には副王。

(1) アリッタジャナカ王の王子であったが、父が叔父に王位を奪われた後に生れ、バラモンによって育てられる。したがってクシャトリヤということになるが、ライフステージとしてはバラモンとして取り直した。

(2) 16 歳になるまでのこととして、15 歳として取り直した。

(11) 菩薩/男/ヴァイシャ (長者 setthin) /16 歳/?

*Jātaka 040 Khadirāṅgāra-j.* (vol. I p.231) : [主分] 菩薩はパーラーナシーにおける豪商の家 (*setṭhissa kula*) に生まれ、色々に楽しく王子のように育てられ、順当に分別のつく年齢になって (*viññūtā*)、16歳 (*soḷasavassa*) の時には、あらゆる学芸に熟達した (*sabbasippesu nipphattiṃ patto*) 《学業の修了》。父親の死によって豪商の家督を相続し、布薩堂を建て、大布施を行い、戒を保ち布薩行を行った。

〈12〉 菩薩/男/バラモン (司祭官 *purohita* の息子) /16歳/1日

① 16歳 《遊学》 ⇒ ② 16歳 (1日後) 《学業の修了》

*Jātaka 163 Susīma-j.* (vol. II p.046) : [主分] 菩薩は王の象の祝祭の執行官 (*hatthimaṅgalakāraka*) である司祭官の夫人の胎に生まれた。16歳 (*soḷasavassa*) の時、父が死に、他の婆羅門は象の祝祭を行なうことの利益を得ようとした。彼らは菩薩がまだ若く3ヴェーダも象の経文も知らないから自分たちに行わせるようにと王に進言した。菩薩はただ1日のうちにタッカシラーへ行って、一夜でこれらを習い、翌日には帰ってきた《遊学/学業の修了》。

〈13〉 菩薩/男/バラモン/16歳/?

① 16歳 《学業の修了》 ⇒ ② 16歳 《就業》

*Jātaka 287 Lābhagaraha-j.* (vol. II p.420) : [主分] 菩薩は婆羅門の家に生まれ、成年に達して (*vayappatta*)、16歳 (*soḷasavassa*) になった時、3ヴェーダおよび18種の学芸の奥義を極め (*tiṇṇaṃ vedānaṃ aṭṭhārasannaṃ sippānaṃ pariyoṣānaṃ patvā*) 《学業の修了》、四方に名高き師匠 (*disāpāmokkhācariya*) となり、500の弟子達に学芸を教えていた《就業》。

〈14〉 スーパーラカ (*Suppāraka*) (菩薩) /男/船乗り (*niyyāmaka*) /16歳/?

① 16歳 《学業の修了》 ⇒ ② 《就業》

*Jātaka 463 Suppāraka-j.* (vol. IV p.136) : [主分] 菩薩は船長 (*niyyāma-jeṭṭhaka*) の子として生まれ、スーパーラカ童子と名づけられ、成長して16歳 (*soḷasavassa*) になった時には、船乗りの学芸の奥義に達した (*niyyāmakasippe nipphattiṃ patvā*) 《学業の修了》。その後、父の死によって (*aparabhāge pitu accayena*) 船乗りの頭となり、船乗りを生業 (*niyyāmaka-kamma*) とした《就業》。

〈15〉 マハーパナーダ (*Mahāpanāda*) (菩薩) /男/クシャトリヤ (王子) /16歳/?

① 16歳 《学業の修了》 ⇒ ② 16歳 《即位/結婚》

*Jātaka 489 Suruci-j.* (vol. IV p.323) : [主分] マハーパナーダ (*Mahāpanāda*) 王子 (菩薩) は成年に達して (*vayappatta*)、16歳 (*soḷasavassa*) になった時には、すでにあらゆる学芸の円熟に達していた (*sabbasippe nipphattiṃ pāpuṇi*) 《学業の修了》。王は彼のために楼台を造って、灌頂式を執り行おうと考えた《即位関連》。マハーパナーダのために楼台祭礼 (*pāsāda-maṅgala*)、[王者の] 天蓋祭礼 (*chatta-maṅgala*)、成婚祭礼 (*āvāha-maṅgala*) という三つの祝典が同時に行われた《即位/結婚<sup>(1)</sup>》。

(1) 【資料集 1-1】では、結婚の資料としては未収録であったものを三つの祝典が16歳のとき行われたものとして補った。

〈16〉アヨーガラ (Ayoghara) (菩薩) /男/クシャトリヤ (王子) /16歳/?

① 16歳《学業の修了》⇒② 16歳《即位関連/隠棲<sup>(1)</sup>》

*Jātaka 510 Ayoghara-j.* (vol.IV p.491) : [主分] 王子 (菩薩) は夜叉女の危害を逃れて、16歳 (soḷasavassa) になるまで鉄の家で成長した。その間にあらゆる学芸をおぼえて《学業の修了》、勇敢で力ある王子となった。王は王国を息子に与えようとしたが《即位関連》、王子はむしろ出家を願い、王も妃も、多くのものがそれにならって出家した《隠棲》。

(1) 【資料集 1-1】では「出家」の項で取ったが、資料集では「出家」は仏教教団への出家として取っており、ここでは「隠棲」として取り直した。また文脈より「即位関連」の年齢資料としても採用した。

〈17〉ジョーティパーラ (Jotipāla) (菩薩) /男/バラモン/16歳/7日

① 16歳《遊学》⇒② 16歳 (7日後) 《学業の修了》⇒③ 16歳《就業》

*Jātaka 522 Sarabhaṅga-j.* (vol.V p.127) : [主分] ジョーティパーラは成長して (vaḍḍamāna) 16歳 (soḷasavassa) になると、この上もない容姿をしていた。それを見て、父は息子にタッカシラーへ行って四方に名高い師匠のもとで学芸を修めるように言った。彼は千金を出して学芸を教わったが、7日目にして奥義に達した《遊学/学業の修了》。師匠は老いたことを理由に500人の青年バラモンを彼に託した (sippam paṭṭhāpetvā satthāhen' eva nipphattiṃ pāpuṇi) 《就業①》。菩薩はすべてを引き受け、バーラーナシーに戻ると、毎日千金をもらって王に仕えた《就業②》。

〈18〉ヴェッサンタラ (Vessantara) (菩薩) /男/クシャトリヤ (王子) /16歳/?

① 16歳《学業の修了》⇒② 16歳《結婚/即位》

*Jātaka 547 Vessantara-j.* (vol.VI p.486) : [主分] 菩薩が16歳 (soḷasavassa) の時、すでにあらゆる学芸を完成させていた ( Bodhisatto soḷasavassakāle yeva sabbasippe nipphattiṃ pāpuṇi) 《学業の修了》。そこで父王はマッダ国の王家から菩薩の叔父の娘マッディーを迎えて第1妃とし、菩薩を灌頂即位させた《結婚/即位》。

〈19〉シッダッタ<sup>3</sup>/男/クシャトリヤ (太子) /満16歳/?

① 16歳《学業の修了》⇒② 16歳《結婚》

『仏本行経』(大正 04 p.062上) : 世人所習 衆諸技術 太子學能 不加日勞 年滿十六 體方精健 文武兼備 藝過諸釋《学業の修了》……王忽寤憶 阿夷所言 如何當令 捨是洪徳 涉苦入山 精勤學道 心即懷疑……王然此義 即召美女 十五以上 容色妙者 六十四種 姿媚具備 尋致諸女 充太子宮《結婚関連》

〈20〉舍利弗<sup>2</sup>/男/バラモン/16歳/8年<sup>(1)</sup>

① 《隠棲》⇒② 16歳《学業の修了》…… a

① 8歳《就学》⇒② 16歳《学業の修了》…… b

a : 『根本有部律』「僧伽伐尸沙 002」(大正 23 p.682中) : [優陀夷] 次至尊者舍利子所住之房。告言諸妹。此是貴族婆羅門子。捨俗出家《隠棲》年始十六。帝釋聲明經心悟解。諸外論者並皆摧伏《学業の修了》。

b: 『根本有部律』 「出家事」 (大正 23 p.1023 上) : [舍利子] 既漸長大。令修學業。世間技藝。悉皆通達。四薛陀論。總蘊在懷。至年十六。善解帝釋聲明。能伏他論。

『普曜經』 (大正 03 p.534 上) : [舍利弗] 又吾好學。八歲從師。至年十六靡不周綜。

『方廣大莊嚴經』 (大正 03 p.613 下) : [舍利弗] 吾少好學八歲從師。年甫十六靡不該綜。

『中本起經』 (大正 04 p.153 下) : 吾小好學。八歲從師。至年十六。古仙道術。靡書不綜。

『出曜經』 (大正 04 p.674 下) : 吾聞斯人年至八歲越衆論上。盡墮諸幢無敢當者。長年十六究盡閻浮利地書籍。無事不開博古覽今演暢幽奧。天文地理書記圖讖。梵志曆術盡皆通達。

(1) b 資料によった

〈21〉 菩薩/男/不明(凡人) /16 歳/?

① 16 歳 《学業の修了》 ⇒ ② 16 歳 《結婚関連》

『六度集經』 85 (大正 03 p.047 中) : 昔者菩薩。時爲凡人。年十有六。志性開達。學博觀弘。無經不貫練 《学業の修了》。精深思衆經道術。何經最眞。何道最安。思已喟然而歎曰。唯佛經最眞無爲最安。重曰。吾當懷其眞處其安矣。親欲爲納妻 《結婚関連》。……

〈22〉 須大拏/男/クシャトリヤ(太子) /16 歳/?

① 16 歳 《学業の修了》 ⇒ ② 《結婚》 (1)

『太子須大拏經』 (大正 03 p.419 上) : 太子至年十六。書計射御及諸禮樂皆悉備足。太子承事父母如事天神。王爲太子別立宮室。太子少小以來常好布施。天下人民及飛鳥走獸。願令衆生常得其福。愚人慳貪不肯布施。愚惑自欺無益於己。智者居世則知布施爲德。布施之士皆爲過去當來今現在佛辟支佛阿羅漢所共稱譽。太子年遂長。大王爲納妃。

(1) 16 歳の時に学業が修了し、王は太子のために宮室を建てて結婚の準備をする。その後「太子年遂長」とあるのは、幾分か期間をおいての「納妃」と解釈した。

〈23〉 雲/男/バラモン(摩那婆/童子) /16 歳/?

① 16 歳 《学業の修了》 ⇒ ② 16 歳 《結婚関連》

『仏本行集經』 (大正 03 p.665 上) : [雲] 少小從師。時年十六。端政可熹。得善種生。父母清淨。乃至七世。無有穢濁。無能譏呵。其家種族。……從彼珍寶仙人之邊。受誦呪術。捷利速疾。所得眞正。一聞便領。語言辯了。字句分明。所有一切婆羅門家。種種呪術。工巧技能。皆悉洞解。解已語彼梵志師言。大師和上。我今習學。已盡和上所有德術。意欲還家。其和上。心戀雲童子。不欲別離。即語之言。汝摩那婆。我有一論。名爲毘陀。乃是往昔諸仙所說。一切外道婆羅門等。未曾知聞。況復得見及以教他。摩那婆言。唯願和上。爲我解說。《学業の修了》…… (p.665 下) 名雲。年始十六。智慧聰明。德術具足。與師無異。……時祭祀德婆羅門女。善技之身。及諸童女。樓上遙望見雲童子端政少雙。見已喜歡。向四

方禮諸天諸神。心自密念。願此童子。論議第一。勝舊上座諸婆羅門。令我遠離此不善人。莫與如此不善之人共爲夫婦《結婚関連》。

(24) シッダッタ④/男/クシャトリヤ (太子) /17 歳/?

『六度集経』78 (大正03 p.041 下) : 太子年十七無經不通。師更拜受。王爲納妃。妃名裘夷。容色之華。天女爲雙。力勢頓却六十巨象。

(25) 一梵志/男/バラモン/20 歳/?

① 20 歳《学業の修了》⇒② 20 歳《遊学》⇒③《比丘》

『法句譬喻経』(大正04 p.587 上) : 昔有梵志其年二十。天才自然事無大小過目則能。自以聰哲而自誓曰。天下技術要當盡知。一藝不通則非明達也。於是遊學無師不造。六藝雜術天文地理。醫方鎮壓山崩地動。擣菹博奕妓樂博撮。裁割衣裳文繡綾綺。厨膳切割調和滋味。人間之事無不兼達 (1)。

(1) 上記の外に次のような資料も存する。ただし同列には扱えないので参考として掲げておく。

①一婆羅門/男/バラモン/60 歳

『法句譬喻経』(大正04 p.597 中) : 昔有婆羅門。年少出家學道。至年六十不能得道。婆羅門法六十不得道。然後歸家娶婦爲居。生得一男端正可愛。至年七歳書學聰了。才辯出口有踰人之操。卒得重病一宿命終。

②須拔/男/バラモン/120 余歳 (期間)

『出曜経』(大正04 p.658 中) : 須拔梵志放聲説曰。我今以得五通神徳無量。…自學道以來百二十餘年。勞形苦體形神疲極。或事五明四處然火日光上照。或臥灰糞。或臥荆棘嶮難之中無道不學。……

[2] 上記資料にもとづいた統計的処理の結果は以下のとおりである。

[2-1] 学業の修了年齢の A 文献・B 文献資料を度数分布表にしてみると以下のようになる。

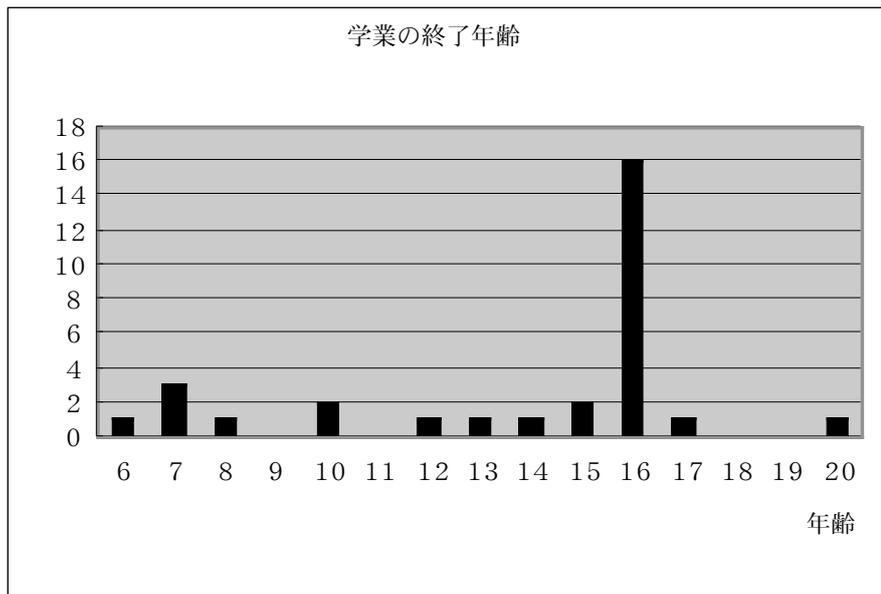
《学業の修了年齢》

年齢	A. 原始仏典				B. 後期仏典				総計
	パーリ		漢訳		<i>Jātaka, Apadāna</i>		本縁部・根本有部律		
	男	女	男	女	男	女	男	女	
6					1				1
7					2		1		3
8							1		1
10							2		2
12							1		1
13			1						1
14			1						1
15					2				2
16	2				8		6		16

原始仏教聖典などにみる就学・結婚などの平均年齢

17						1		1
20						1		1
平均	16		13.5		13.7		13.8	13.9
最頻値	16		-		16		16	16
総計	2		2		13		13	30

[2-2] 上記の表をヒストグラムで表すと次のようになる。ヒストグラムはA文献・B文献を合わせたものである。



[2-3] A文献（4件）、B文献（26件）を合わせた学業の修了年齢の最頻値は16歳（度数16〔相対度数53.33〕）となっている。標本が小さいがA文献・B文献とも最頻値は16歳である。平均を強いて出せば、A文献は14.8歳、B文献は13.8歳、A文献・B文献を合わせた平均は13.9歳である。

[3] 上記に基づいて若干の考察を加える。

[3-1] 修了年齢とともに就学年齢を記す資料は少ない。したがって就学期間が？になっているものが多い。

学業の修了年齢の最頻値は16歳であるが、就学期間を1日とか7日という数字は説話的な数字として度外視すると、就学期間が判明するものはわずかに〈20〉のみであり、これは8年である。しかし前項において考察したように、就学年齢の最頻値は8歳であり、学業の修了年齢を16歳であるとする、就学期間は8年ということになる。

[3-2] なおB文献においては、学業の修了年齢を6歳、7歳、8歳とするものがある。しかしこれは就学の平均年齢よりも幼いか同年であり、特殊ケースがあり得たとしても、常識的には理解できない。おそらくこれは何らかの教育機関なり、外部の教師について学を修めたというのではなく、いわば家庭内教育が修了したものと解しておきたい。

[3-3] なお修学した内容を調査してみると次のようになる。

種々の学問と武芸：〈1〉の『四分律』「雑毘度」＝クシャトリヤ・男、〈2〉の『四分律』「受戒毘度」＝クシャトリヤ・男子、〈6〉の『過去現在因果経』＝クシャトリヤ・男、〈8〉の『仏本行集経』＝クシャトリヤ・男、〈9〉の *Jātaka* 531＝クシャトリヤ・男、〈11〉の *Jātaka* 040＝ヴァイシャ・男、〈15〉の *Jātaka* 489＝クシャトリヤ・男、〈16〉の *Jātaka* 510＝クシャトリヤ・男、〈18〉の *Jātaka* 547＝クシャトリヤ・男、〈19〉の『仏本行経』＝クシャトリヤ・男、〈22〉の『太子須大拏経』＝クシャトリヤ・男

学問（3 ヴェーダその他を含む）：〈3〉の *MN.093*＝バラモン・男、〈4〉の *MN.095*＝バラモン・男、〈1〉の *Jātaka* 257＝クシャトリヤ・男、〈3〉の *Apadāna* 03-55-541＝遍歴者・男、〈5〉の『撰集百縁経』＝バラモン・男、〈10〉の *Jātaka* 539＝バラモン・男、〈12〉の *Jātaka* 163＝バラモン・男、〈13〉の *Jātaka* 287＝バラモン・男、〈17〉の *Jātaka* 522＝バラモン・男<sup>(1)</sup>、〈20〉の『根本有部律』「僧伽伐尸沙」＝バラモン・男、〈20〉の『根本有部律』「出家事」＝バラモン・男、〈20〉の『普曜経』＝バラモン・男、〈20〉の『方广大莊嚴経』＝バラモン・男、〈20〉の『出曜経』＝バラモン・男、〈21〉の『六度集経』＝不明・男、〈25〉の『法句譬喻経』＝バラモン・男

3 ヴェーダ：〈2〉の *Apadāna* 03-33-324＝バラモン・男

古仙道術：〈20〉の『中本起経』＝バラモン・男、〈23〉の『仏本行集経』＝バラモン・男

道俗の学問：〈4〉の『六度集経』＝ヴァイシャ・男、〈7〉の『六度集経』＝ヴァイシャ・男

船乗りの技術：〈14〉の *Jātaka* 463＝船乗り・男

不明：〈24〉の『六度集経』＝クシャトリヤ・男

それほど詳細に記されているわけではなく、恣意的な分類になった部分もあるが、クシャトリヤの男子が学ぶものは学問と武芸であり、バラモンの男子が学ぶものは3 ヴェーダを含む学問であるということがわかる。当然のことであるが、就学を調査したときの傾向と同様である。

(1) *Jātaka* において「学芸 (sippa)」とするものは、クシャトリヤにおいては「種々の学問と武芸」に分類したが、これはバラモンであるためここに分類した。

[3-4] ちなみに法典類が定める学生期の期間は区々であるが、1つのヴェーダを12年間学習すべきであるとするものが多い。したがって学習すべきヴェーダを4ヴェーダとするものは48年間、3ヴェーダとするものは36年間ということになる。しかしこれはいわば理想態のようであって、多くの場合は4分の3でも、半分でも、4分の1でもよいとされている。4分の1とするなら4ヴェーダの場合は12年間、3ヴェーダの場合は9年間である。しかしいずれにしても原始仏教文献のいう平均的な就学期間の8年間には相当しない。ただし *Arthasāstra* 1.5.8~10は王子（クシャトリヤ）の場合として、16歳に至るまで梵行を守るべきであるとしている<sup>(1)</sup>。ただし多くの法典は、クシャトリヤの入門式を11歳とするから、就学期間は5年間ということになる。なお上記 *Arthasāstra* は王子（クシャトリヤ）の学ぶべきものは3ヴェーダと形而上学、部局の長官たちから経済学、理論家と実践家たちから司

法とされているが、バラモンの場合はヴェーダに関する学問であり、ここでわれわれが考えているようなライフステージとしての就学と学業の修了をイメージしているのではないようである。

(1) 「モノグラフ」第9号 p.191

[3-5] 上記のように原始仏教聖典によれば、学業修了年齢の最頻値は16歳であるが、法典類によれば、この16歳に行われるのは髭剃式 (keśānta, godāna) あるいは結髪式 (cūḍākaraṇa) である<sup>(1)</sup>。これはおそらく成人式のようなものであろうから、むしろこれを標準的な学業の修了年齢と見なしてよいのではなかろうか。

(1) 「モノグラフ」第9号 pp.189~190 参照